

1 級東京会場【パターン】 傾向と対策

色が付いていない箇所は常に気を付けていただきたい箇所となります。青く印した箇所は今回のデザインで関係ある箇所です。

1 級ではパターンの完成度の高さを求める。

デザイン表現やシルエットの完成度を上げるためにデザイン線や構造線、バランスをどのようにすればよいか研究や工夫をし、試験に望んで頂きたい。また、パタンナーの業務として、しかるべき位置に正確にいせを入れ、くせとりを行い、本物の商品が想像できるものでなくてはならない。

以下の項目は、求めているレベルに達していない又は未完成のため不合格の対象となるので注意する。

- ① 課題のデザインが正しく立体化されていないもの
- ② 構造上のデザイン線の間違え
- ③ パーツの欠落のあるもの
- ④ シーチング組立てが未完成なもの
- ⑤ 地の目の方向が異なるもの(横地使用)
- ⑥ 着丈・袖丈等の違い
- ⑦ パターンの欠落、縫い代の欠落
- ⑧ 仕様書が未記入

<身頃>

構成	①	衿ぐり、袖ぐりにジャケットとしての適量のゆとりを入れ、残りの分量はウエストダーツを利用し ① マニピュレーションで処理するが、マニピュレーション後のダーツ量が適切でないと美しいシルエットが得られない。シルエットを確認した上での分量調節は必須である。
	②	パネルラインの切替え線位置は、必要なバスト寸法とウエスト仕上がり寸法を決め、後ろ身頃、細腹、前身頃へ分量を振り分けて、ウエストダーツや切り替え線の位置を決める。脇に縫い目線がない分、切り替え線が中心に寄りすぎると今回のシルエットが得られない。
	③	着丈がヒップラインを超える為、仕上がりのヒップ寸法を十分考慮すべきである。デザイン画からウエストシェイプ量を読み取り、各切り替え線（デザイン線、構造線）は滑らかなカーブで描くことが必須である。
展開	①	マニピュレーションの展開位置は、ウエストダーツからポケットの縫製時に切り込む線に向かって展開する。切り込む位置から下に残ったウエストダーツ分量は美しくポケットを仕上げる為、前パネルラインでカットすることが多い。マニピュレーションで展開した分量を閉じる際、前パネルラインの繋がりがや、ポケット口が開かないように注意する。

<ボタン・ポケット>

バランス	①	ボタン位置や間隔の読み取りが悪いものが多く見られた。ボタン位置やバランスはラベル折れ止まりと腰ポケット位置から読み取り位置を決める。
	②	腰フラップポケット、左胸箱ポケットの付け位置や大きさがデザイン画のバランスと合わないものが多く見られた。ラベル返り止まりやボタン位置等を基準に、フラップポケット位置やボタンの間隔を確認し位置を決める。フラップは裾線に対して平行に見える様に作図する。

<ラベルと衿>

	①	前後衿ぐり線の繋がりが悪いと美しい衿の形状が表現できないため、パターン作成の際、線の繋がりを確認することは必須である。
--	---	---

バランス	②	上衿とラペルの接ぎ合わせ位置や上衿とラペルの大きさのバランスが悪いものが多く見られた。上衿とゴージライン、ラペルは、デザイン画からバランスを確認して大きさや角度を決める。
------	---	---

<袖・袖口ボタン>

袖山の高さ・幅	①	袖は身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決め、出題の素材に合ういせ分量を入れる。袖山のいせ配分が悪いものや、袖山の形状がよくないものも多く見られた。袖幅も袖山の高さに応じた幅が必要となる。
袖の振り	②	袖山のカーブの形状は袖の振りに大きく影響する。袖ぐりに合った袖山形状を作図して適切な袖の振りを表現する。
ボタン	③	袖口明き見せはボタンの個数に対して長さやボタン位置を設定し、バランスよく作図する。

<工業用パターン作成>

展開	①	表衿、見返しの展開方法は様々であるが、設定の素材に対して適切な分量を決めて作成する。表衿の工業用パターンはわ裁ちの場合、左右のパターンを開いて作成するが、裏衿の後ろ中心線はわ裁ち、接ぎの2種類の方法がある。見返しは右身頃を作成する為、前身頃のパターンから形状を抜き出した後に反転する必要がある。
	②	箱ポケットは左胸に付く為、右前身頃のパターンから箱ポケットの形状を抜き出した後に反転させて作成する必要がある。箱ポケット口はわ裁ちで作成する。
縫い代 合い印 記号	①	工業用パターンはファーストパターンに縫製方法を考慮した縫い代を付けて作成する。各パーツの角処理、角処理のノッチ、合い印は正確に付ける。
パーツ	①	ポケットのパーツに欠落が多く見受けられたが、出題に表地のすべてのパーツを作成とある為、表地のパーツはすべて揃っていないと不合格となる。芯地や裏地の工業用パターンは不要である。
	②	通常、工業用パターンには伸び止めテープや芯を貼る位置を記載するが、企業や縫製工場により様々な方法がある為、本検定では伸び止めテープや芯の指示は採点基準に含んでいない。実際のパタンナー業務では仕上がりのよい商品を作る為、何処にテープや芯を貼るべきかを考え適切な位置に指示をする必要がある。

<縫製仕様書>

記入方法	①	縫製仕様書は様々な記入方法があるが縫製工場が縫製仕様書をみて確実に縫製できるように仕上げる事が重要である。特にデザイン画からパターン作成を行った際、パターンと同じ前後の正確なハンガーイラスト記入は必須であり、正確な仕様を伝える為に断面図が必要な場合もある。ステッチの有無、ボタンの大きさの記入にも注意し、出題にある素材、価格設定から縫製方法を決めて記入しなければならない。
------	---	--